

国語問題

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二、問題は二十ページに渡っており、・で構成されている。
ページの抜けや印刷不備があった場合には、直ちに試験監督の先生に申し出ること。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくてもかまいません。

一

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

空は、雲ひとつない晴天。五月晴れつていうのかな。

わたしは、運動場の前で思いつ切りのびをした。

「スポーツテスト晴れじゃ」

運動場には、すでに他のクラスの子たちが集まっている。スポーツテスト、正しくは新体力テストは、一学年そろって行う。わたしは、くつ^①のひもをきゅつと結び直した。

算数や国語のテストではいい成績はとれないけれど、運動のテストならまかせとけ！ 体育は、どの教科よりも得意。そして大好き。

スポーツテストは、クラスごとに男女に分かれて、種目をずらしていく。一組の男子が五十メートル走のときは、二組の男子は立ち幅^{はば}とび、三組はソフトボール投げ。むだな時間がないように、ローテーションを組んでいく。それでも時々、待ち時間も出てきて、そんなときはよそのクラスの様子をながめるのが楽しみ。

真子^{まこ}によれば、わたしが五十メートル走を走ったときは、見ていた子たちから「おっ」という声が起こったらしい。

「7秒5！」

担任のひとみ先生が、ストップウォッチを持ってさげんだ。わたしは思わず飛びはねた。

「全国大会レベル！」

ひとみ先生もうれしそうだ。

「市内陸上大会が楽しみだね」

五年生からは、市内陸上大会にも出られるのだ。

三時間ばかりで全部の種目を終え、教室へと向かうと、

「リイマ、すごかったねえ」

真子と由香がかけ寄ってきた。

「リイマの五十メートル、学年で一番だったんだって」

由香が、自分のことみたいに誇らしげに教えてくれた。

「女子で一番ってこと？」

「ノー！」

由香は、両手で頭の上にバツテンを作った。

「なんと男子トップの亮よりも、リイマのほうが速かったです。リイマがチャンピオン！」

真子と由香が、盛大に拍手してくれた。わたしは、ガッツポーズを決めた。

女子では毎年一番だったけれど、男子には負けた。でも、今回は男子にも勝ったんだ。やったー。

手洗い場の前に、亮がいた。わたしの顔を見ると、チツと舌打ちをした。

②「黒人だから速いだけだ。いい気になるな」

わたしは、速攻で言い返した。

「いい気になんてなってないよ」

絶対聞こえたはずなのに、亮は聞こえてないそぶりだ。わたしは、亮の前に回りこんだ。

「いい気になってないし、わたしが速いのは黒人だからじゃない。わたしの A！」

「うるせえ、黒人」

亮は、わたしをおしのけて去っていった。

「ムカつくー！」

わたしは、じだんだをふんだ。

「ひどいね」

とつぜん、同じクラスの三島さんが話しかけてきた。

「黒人だからって言い方、許せないよね」

そんなに仲がいいわけでもないのに、わたしの味方をしてくれたのでおどろいた。

「ほっとけばいいって。リイマに負けたからくやしんだよ、あいつ」

真子が言っても、

「許せない。絶対に許せない」

③三島さんは、自分のことみたいに聞こえてくれた。正義感が強いのかな。

本当は、「黒人だから速い」って言われたとき、とうとう言われたと思った。今までだれも言わなかったから、わたしも気づかないふりをしてた。でも、世の中で「黒人は足が速い」って言われていることは知ってる。陸上競技の世界大会を見ても、決勝戦に残るのは、断然黒人選手だ。だけど、黒人だったらだれでも速いってわけじゃない。わたしが速いのが、黒人だからって言われるのは腹が立つ。わたしが速いのは、わたしの力。⑤はだの色なんて関係ない。

教室に行くと、男子が数人、固まって話してた。

「ぜってー、ズリいよな」

大きな声を出しているのは亮だ。

「黒人なんて、速いに決まってるじゃん」

わたしのことだと、ぴんときた。わたしは、つかつか近づいて言った。

「黒人はみんな速いと思ってるの、あんだ。バカじゃない？ わたしが速いのは、わたしの実力」

「そーだ、そーだ」

真子と由香が、後ろから味方してくれた。

「リイマに負けたからって、^(注3)インネンつけんじゃねえよ」

「ひきよう者」

亮は、^(注4)にくにくしげにわたしをにらんでる。でも、次の言葉が出てこない。わたしは、とどめをさした。

「そういうの『負けおしみの減らず口』っていうんだよ」

ふん、勝ったね。もともと口でわたしたちに勝てるはずがないんだから。

それで終わるはずだった。なのに……。

「人種差別だよ、それ」

三島さんが、こわい顔で男の子たちに食^(b)ってかかった。

「リイマさんが黒人だからって差別してる」

「はあ？」

亮が意味がわかんないって顔をした。

⑥「人種差別なんてしてねえじゃん」

差別はされていないな、とわたしも思った。言いがかりをつけられただけで。だから、授業の最初に、三島さんが「亮くんたちが人種差別してます」と言いつけて、ひとみ先生から事情をきかれたときも、「されてないです」と答えた。

「差別とかじゃなくて、亮は結局、五十メートル走で負けたのがくやくしくて、文句言ってきただけです。^(注5)自分のが速かったら、なんにも言わなかったと思います」

ふてくされた顔の亮に、先生がたずねた。

「どうですか？ 亮くん」

すると、やつはまたへんなことを言いだした。

「先生さ、今年の市内陸上大会にリイマを出すんだろ」

「市内陸上大会？」

先生は、一瞬言葉につまった。

「選手はまだ決まっています」

「でも、このままだったら、リイマが選手になるよね？」

亮はしつこい。確かに五十メートル走のとき、そんな話はした。

「そうね。リイマさんは、学年でいちばん足が速かったし。そうなる可能性が高いと思うわよ」

さすがにここで選手決定とは言えないのだろう。先生は、「可能性が高い」という言い方にとどめた。

亮は、あいかわらずふてくされている。

「六年が言ってただけだし、去年、大泉小の五年が百メートルでぶつちぎりで優勝したんだって。六年を抑えてさ。そいつ

が出たおかげで、リレーも優勝したし。けだし、そいつ黒人なんだ。背だつて高いし。だから、他の学校はみんなずるいて言ってる。おれも、ずるいと思う」

大泉小には、校区に外国の人が働く工場があるから、外国人の子も少なくない。黒人の子もいるだろう。みんな、同じように学校に通い、同じように市内の大会にも出てくる。わたしは、

「その子もちゃんと大泉小の子なんだから、ずるくもひきょうでもないでしょ」

見たこともない大泉小の子をかばった。すると、亮は口をひん曲げた。

「黒人どうしだからって、かばうな」

「黒人どうしだからじゃなくて、なにも悪いところがないから、そう言ってるんじゃない」
むっとして言い返すと、

⑦「悪いところ、あるよ。黒人つてところ。黒人は速いに決まってるから出てきたらだめなんだ」
絶対、絶対、ぜったいおかしなことを、亮は平然と言い放った。

「速かったら、なんで出ちゃだめなの？」

⑧「わたしが興奮していきなりまくってるのに、

「勝負になんねえからじゃん」

亮は、平然としてる。

「オリンピックじゃあるまいし、市内陸上大会で助っ人で黒人が出てきたら、負け決定。勝負ついちゃうだろ」
なんだ、なんだ、なんだ、その理屈は！

いかりで頭の中がドッカーンと爆発した。言い返そうにも、頭がかつかつかしてきてまとまらない。広樹が、

「そうだ、いいことを考えた。黒人ばっかりの大会、作ればいいじゃん。黒人大会」

つて、しょーもないことを言っただ笑いした。つられて何人か笑った。

「笑うな！」

わたしは、教室中にひびく声を出した。教室がいつぱんにしんと静まり返った。

「わたしはさあ」

⑨話したら、鼻がつんとしてきた。だめだ。泣きそうだ。一回深呼吸して自分を落ち着かせる。

「わたしは、助っ人じゃないよ。もともとこの学校の子なんだから」

「そうだよ。黒人大会とか、バツカじゃないの」

真子がすぐに援護射撃してくれた。

「亮って、サイテーサイアク」

由香が言うと、他の子もクスクス笑いだした。

先生は、落ち着いた声でみんなに言いわたした。

「市内陸上大会は、市内の小中学校に通っている子どもなら、だれが出てもかまわないことになっているの。たとえ外国人の児童・生徒でも、出ていいことになっています」

「先生、わたし、日本人です」

わたしは、「日本人」を主張した。そこをまちがえてもらっては困る。

「うん。そうだった、ごめんなさい」

先生は、素直に謝ってくれた。なのに、亮がすかさず反論してきた。

「日本人に見えねえじゃん」

調子に乗って広樹も、

「そだよ。リイマなんて、絶対外国人にしか見えない」

と言いだした。もうがまんできない。わたしは立ち上がった。

「はあ？ なに言ってるの。わたしは『ことわざ検定七級』、『漢字検定六級』で」

「くっだらねえ」

亮がはきス^えてるみたいに言った。

「くだらなくない。わたしは□真□銘^{めい}、日本人なんだから！」

そのとき、

「こういうのが人種差別なんだと思います！」

三島さんが、ツクエをバンツとたたいた。

⑨ ジンシュサベツ。

背中がひやりとした。

「人種差別に反対します！」

三島さんがもう一度言うのと、拍手が起こった。

「リイマがかわいそう」

「黒人なのは、リイマのせいじゃないのに」

「亮、黒人を差別するな」

みんな、わたしの味方だ。でも……。

⑩ 胸の中に、灰色の雲がわき上がってくる。

ジンシュサベツハンタイ？

コクジンヲサベツスルナ？

「三島さんやみんなの言うとおりです」

先生は、まじめな顔でみんなに言った。

「亮くんたちの言ってることは差別です。差別は許されません。今後一切、リイマさんを差別しないようにね」

「……はあい」

⑪ 亮は、絶対納得できてない顔でうなずいた。

三島さんは、わたしを見て満足そうにほほえんだ。

人種差別されていたあなたを、救ってあげましたよ。

三島さんの目は、そう語ってた。

わたしは、反射的に笑顔を返したけど。

でも、本当はいかりがわいてくるのを感じてた。
それは亮にじゃなくて。

なんだろう。

⑫
三島さんに。

(山本悦子『わたしに続く道』)

(注1) 新体力テスト：体力・運動能力をはかるテスト。にぎる・投げる・走るなどを測定する。

(注2) ローターション：作業などを複数の人数・団体でおこなうときの、決められた交代の順序。

(注3) インネンつけんじゃねえよ：「因縁いんねんをつける」で、相手に対して無理な言いがかりをつけること。

(注4) にくにくしげに：とてもにくたらしく思っている様子。

(注5) 自分のが：「自分の方が」の意味。

(注6) 大泉小：リイマたちの小学校の近くにある、別の小学校。

(注7) 援護射撃：戦っている味方を守るためにその背後から敵を射撃すること。ここでは困っている仲間や味方が有利になるような発言をすること。

問一 〓線①②のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 〰️線 ㉠「じだんだをふんだ」・㉡「食ってかかった」のことばの意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号

で答えなさい。

㉠ じだんだをふんだ

- ア 事実ではない悪口を言われて不機嫌げんになった
- イ からかわれたのに反論できず、くやしがあった
- ウ 筋の通らない悪口に激しいかりを爆発ぼくさせた
- エ ひどいことを言われてすっかり落ち込んでしまった

㉡ 食ってかかった

- ア 相手の意見を聞こうとした
- イ 相手ににくしみの目を向けた
- ウ 激しい勢いで抗議こぎしはじめた
- エ 自分の言い分を隠かくそうとした

問三 〰️線 ㉠「くつのひもをきゅっと結び直した」とありますが、ここからスポーツテストに対するリイマのどのような気持ちが

読み取れますか。その気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 得意なスポーツテストが始まるので、よい成績を取ろうと張り切っている。
- イ スポーツは好きだが、周りには運動神経のよい子も多いので、緊張きんしている。
- ウ 足は速いほうだが、以前のスポーツテストで転んだ経験があるので、不安になっている。
- エ 走るときのいつものしぐさで、スポーツテスト前に気持ちを落ち着けようとしている。

問四

——線②「黒人だから速いだけだ。いい気になるな」とありますが、亮がリイマにこのように言ってきたのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分は学年で一番足が速いと思っていたのに、リイマに負けたことがくやしかったから。
- イ 一番自信を持っていた競技で負けてしまい、自分の不甲斐なさに気落ちしてしまったから。
- ウ リイマと一緒に走ってお互いの実力を確認しなかったのに、拒否されたことが悲しかったから。
- エ 走ることについてリイマと話そうとしたのに、うまくことばが出てこず、いらだちを感じたから。

問五

A に入る最も適当なことばを、本文中より漢字二字で抜き出しなさい。

問六

——線③「三島さんは、自分のことみたいにおこってくれた」とありますが、「三島さん」が亮に「おこって」いたのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 亮よりも足が速かった人は他にもいるのに、リイマだけを責めていたから。
- イ 亮がスポーツテストの結果に納得できない理由をリイマのせいにしていたから。
- ウ 亮に黒人と言われたことで、リイマが当然傷ついたと思ひ込んでいたから。
- エ 亮の発言を人種差別だと思ひ、リイマの悲しそうな顔を見ていられなかったから。

問七

——線④「わたしも気づかないふりをしてた」とありますが、どのようなことを「気づかないふりをして」いたのですか。その内容を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア わたしの考え方がみんなと合わないのは自分が黒人だからだということ。
- イ わたしはクラスの他の友だちとは違う選^{ちが}ばれた存在であるということ。
- ウ わたしはクラスのみんなと同じくらいの運動能力しかないということ。
- エ わたしの足が速いのは黒人だからだと、周りから思われているということ。

問八

——線⑤「はだの色なんて関係ない」とありますが、リイマがこのように思う根拠^{きよ}はどのようなことですか。「〜」ということ。につながる語句を本文中から二十字で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問九

——線⑥「差別はされてないな、とわたしも思った」とありますが、リイマは亮のことばを、どのように受け止めていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 亮はリイマに負けたことがくやしかったため、言いがかりをつけただけだということ。
- イ 亮はスポーツテストで男女と一緒にあつかうことに不満をもっているのだということ。
- ウ 亮が市内陸上大会に出たいがためにリイマの力を認めないようにしているということ。
- エ 亮がリイマとの口げんかには勝てないので、「黒人」を持ち出してしまったということ。

問十

——線⑦「絶対、絶対、ぜ〜ったいおかしなこと」とありますが、リイマは亮のことばのどこを「おかしなこと」と思っているのでしょうか。本文中のことばを使って二点答えなさい。

問十一 — 線⑧「鼻がつんとしてきた」とありますが、このときのリイマはどのような気持ちでしたか。その気持ちの説明としてあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の足の速さを受け入れ評価しないクラスのみんなや先生に対し、不満に思う気持ち。
- イ 自分はクラスの一員であるはずなのに仲間でないような言い方をされ、つらい気持ち。
- ウ みんなの前で亮たち一部の男子から黒人だと言いたてられ笑われてしまい、悲しい気持ち。
- エ ここで泣いたらますますからかわれるに違いないと思い、涙をこらえようとする気持ち。

問十二 「真銘」とありますが、に当てはまる共通の漢字一字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

問十三 — 線⑨「背中がひやりとした」とありますが、このときリイマはどのようなことを感じたのでしょうか。その内容を説明したものと最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人種差別をするつもりはなかったのに亮たちの発言を三島さんが必要以上に責めるので、かわいそうだと亮に同情してしまった。
- イ 自分が黒人あることが理由で、夢に見ていた市内陸上大会に出られないかもしれないと先生に言われ、衝撃を受けていた。
- ウ クラスのみんなとは違うことを心のどこかで感じていたが、やはり自分は黒人であり差別される存在であると自覚してしまった。
- エ 自分の事が原因で亮と三島さんが対立し、クラスのみんなや先生も巻き込んで大事になってしまったことを不安に感じていた。

問十四

——線⑩「胸の中に、灰色の雲がわき上がってくる」とありますが、ここからリイマのどのような感情を読み取ることができ
ますか。その感情を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 努力をして取ったことわざや漢字の検定をくだらないと言われ、亮に対するにくしみを感じている。
- イ クラスメイトの多くが味方になってくれたので、亮に対するいかりはおさまり、冷静になっている。
- ウ 自分は差別だと思っていなかったのに周りが騒いでしまったので、みんなに対して不信感が芽生えている。
- エ クラスのみんなは前向きなことをかけてくれるが、自分の中で納得いくものとは違うために、戸惑っている。

問十五

——線⑪「亮は、絶対納得できてない顔でうなずいた。三島さんは、わたしを見て満足そうにほほえんだ」での亮と三島さん
の様子は大きく違っていますが、この二人のリイマについての考え方にはどのような共通点がありますか。解答用紙の空欄
にあてはまる説明を十五字以上二十字以内で考えて答えなさい。

問十六

——線⑫「三島さんに」とありますが、リイマはなぜ三島さんに「いかり」を感じていたのでしょうか。その理由として最も
適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 三島さんが亮の発言を差別だと言い出したことで、リイマが陸上大会に参加できなくなったから。
- イ 三島さんは自分の考えの中にも差別的な面があることに気づかず、自分が正しいと信じているから。
- ウ 三島さんが亮と仲が悪いためにリイマの味方をしただけで、リイマのための行動ではなかったから。
- エ 三島さんがクラスのみんなからいい子だと思ってもらいたいたために、リイマをかばったとわかったから。

二

次の文章は、フェアトレード（公正な貿易）について論じたものです。これを読み、後の問いに答えなさい。

① フェアトレードという言葉をご存じでしょうか。最近コンビニやカフェでも図1・2の認証ラベルを見ることが増えてきました。これらはフェアトレードで取引されたコーヒー豆やチョコレートなど菓子類（注1）に与えられる認証です。最近、巷では環境問題への取組みとしてのフェアトレードを強調しているものもあります。

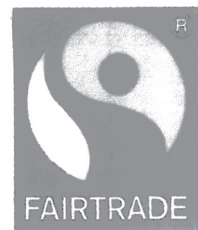


図1

図2

A 生産物

フェアトレードは、一般に「発展途上国の農産物などを、適正な価格で買い取る貿易」などと言われます。適正な価格で買い取るのは当たり前なのに、なぜ発展途上国の農産物をめぐる貿易では公平・公正さが保たれていないのでしょうか。それは欧米諸国によって行われた植民地化の「負の遺産」があるからなのです。植民地化の「負の遺産」とは、「プランテーション」と呼ばれる農業のことです。

「プランテーション」は植民地化をきっかけに始められ、その多くが欧米諸国の企業が直接経営する大農園で、熱帯・亜熱帯性作物のコーヒー豆やカカオ豆（チョコレートの原料）などを大キボ（注2）に大量栽培します。欧米諸国の企業は、この大農園の管理や作物の栽培・収穫作業を、現地の人々（以前は奴隷制も用いられていた）に低賃金で行わせてきました。その後、第二次世界大戦が終わり、多くの植民地は独立を達成していききましたが、この経済的主従システムは現在でも残り続けることとなりました。

確かに独立後、欧米諸国の企業は直接経営からは手を引き、大農園の多くは現地の中小農家に分割して引き継がれました。しかし、現地の中小農家は大市场である先進国で販売する流通チャネルを持っていないため、結局欧米諸国の企業に頼らざるを得ない弱い立場のままにあります。また一部の大農園は、現地の資本家たちによって引き継がれましたが、新たな農園主となった資本家たちも欧米諸国の企業と同様、農作業は低賃金で雇った農業労働者に任せ、自分たちはトシ部の大豪邸（注3）に住み、豊かな暮らしを送っています。

こうして生産された農産物は、農園主から買い手である欧米諸国(注10)（旧宗主国）の企業が安値で仕入れ、加工処理した後にさらにその他の流通業者を経て、カフェやコンビニ、スーパーマーケットなどのお店で販売されています。この生産・流通過程を経て、私たちは格安で美味しいコーヒーを飲めたり、チョコレートを食べたりできています。言い換えれば、私たちは農園で働く貧しい農業労働者の犠牲(ぎせい)のおかげで豊かな生活が送れているのです。この悪しきシステムが固定化されてしまった背景にあるのが、植民地化だったというわけです。

もちろんこの流れを変えるために始まったのがフェアトレードではあるのですが、もう少し複雑な事情もありました。

B コーヒー豆の場合、第二次世界大戦後、世界的にコーヒー豆の需要が増加し、コーヒー豆の市場価格は上昇を続けたため、中南米の伝統的なコーヒー豆生産国であるブラジルやコロンビアに加え、アフリカやアジアの国々もコーヒー豆の増産に踏み切りました。その結果、1950年代後半には供給過剰(じょう)から価格が低迷し、生産国は外貨収入が減り、困窮する農家も出てしまいました。そこで価格の安定・維持(い)を図るため、コーヒー豆の主要生産国が各年の輸出割当量を定める国際協定を1962年に発効(はつこう)しました。しばらくはこの協定の効果から、コーヒー豆の価格は安定していました。

C、これも失敗に終わります。最大の生産国であるブラジルで1985年に大干ばつ(だ)が起こってしまいました。この影響による不作からコーヒー豆の価格が高騰(たうとう)してしまい、輸出割当量をめぐって生産国と消費国が対立するようになってしまいました。確かにコーヒー豆などを栽培する熱帯・亜熱帯の地域は、熱波や干ばつなどによる異常気象や病虫害が発生しやすい地域で、生産量の変動がどうしても大きくなります。（中略）このようになると結果として、生産者にとっては安定した収入は望めないため、生産意欲が上がらず、新たな農業投資も行いにくくなっていきます。コーヒー豆の貿易において、これらすべての問題を解決するための手段となるのがフェアトレードなのです。

フェアトレードでは、利益を目的としないNGO（非政府組織）が、労働者の人権や生活向上といった社会的基準、農園での農薬の使用規制など環境的基準を満たした発展途上国の生産者をまず認定します。そして最低価格や奨励金の支払いを保証

する先進国の輸入業者や製造業者を認定します。

⑤ここに「フェア」なトレードの本当の意味があります。何でもかんでも高値で買い取るわけではないのです。当たり前なのですが、社会的基準や環境的基準を満たした良質のものをつくってくれば、それに見合うだけの価格（経済的基準）で買い取ります。そうなれば、発展途上国の農業労働者も良質のコーヒー豆を作る生産意欲に着実につながっていきます。

そしてまた買い手である先進国の私たち消費者は自分たちで美味しいコーヒー豆もカカオ豆も栽培できる環境はほとんどないわけですから、発展途上国にお願いをして質の高い農産物を作ってもらわないといけません。つまりフェアトレードは、発展途上国の農業労働者も、先進国の消費者も、お互いにとつて持続可能な開発につながるための取組みということが言えます。

先進国の買ってやっているという ㊦ からの意識をやめること、それが「フェアトレード」の第一歩なのかもしれません。

（宇野 仙『SDGsは地理で学べ』）

（注1）認証ラベル：ここではフェアトレード商品であることが正式に認められた商品につけるラベル。

（注2）巷：世間。

（注3）植民地化：外国が別の国を政治的・経済的に支配すること。発展途上国の多くは十九世紀後半に欧米の植民地にされた歴史を持つ。

（注4）プランテーション：熱帯・亜熱帯地域で先住民や移民の安い労働力を使って、時刻に必要な食物ではなく外国市場で売するための作物を栽培する大規模農場のこと。

（注5）亜熱帯：熱帯と似た気候を持つ地域。

（注6）奴隸制：個人としての自由・人権を認められず他人の所有物として労働を強いられる「奴隸」の階級が残る社会制度。

（注7）主従：対等ではなく、一方が主となり、他を従わせること。

（注8）流通チャネル：生産者から消費者に商品を送り届けるまでの経路。

（注9）資本家：元手になるお金を持ち、労働者を雇って事業を経営する人。

（注10）宗主国：植民地を支配していた国のこと。

（注11）需要：ある品物が世の中全体で必要とされる量のこと。

- (注12) 市場：特定の商品や株式などの取引が行われる仕組みのこと。
- (注13) 供給過剰：商品やものの提供が必要な量（需要）よりも多すぎる状態。
- (注14) 困窮する：貧しくて日々の生活に困ること。
- (注15) 維持：同じ状態を保ち続けること。
- (注16) 発効：条約や法律などが正式に効力を持ち始めること。
- (注17) 高騰する：大幅に値上はばがりすること。
- (注18) 農業投資：農業分野に資金や技術を投じて利益を得ること。
- (注19) 奨励金：基準を満たす農産物や製品を増やすため、それを作った生産者に与えられる補助金。

問一 〓線①②のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 〓線①「フェアトレードという言葉をご存じでしょうか」とありますが、この問いにはどのような役割がありますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア まだ世間的になじみのないことばなので、きちんと解説をした上で書き進めていくという役割。
- イ 読者に呼びかけるかたちをとって関心を引き、話題となることばの共通認識を持つという役割。
- ウ 英語の単語の意味がわかればどのようなものか想像がつくので、読者に自分で考えさせるといいう役割。
- エ コーヒー豆やチョコレートなど、身近なものが難しい問題と関係していることを意識させるという役割。

問三 A C に入ることばとして最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ そして
- ウ 例えば
- エ つまり
- オ そもそも

問四 — 線②「『負の遺産』」とは、どのようなことを指していますか。本文中のことは使って三十五字以内で説明しなさい。

問五 — 線① a) d) の「が」の中で、他と用法が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問六 — 線③「この流れ」とは、どのようなことを指していますか。次の中から適当なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 独立後に大きな農場が中小化したのが経営が成り立たず、建て直すために大農場の経営に戻らざるを得なかったこと。
- イ 独立後に経営者が現地の人が変わっただけで、安い給料で地元の人々が働かされている状態が変わらなかったこと。
- ウ 欧米の支配から離れ、経営が現地の人に替わるなどの変化の結果、発展途上国と欧米諸国の仲が悪化していること。
- エ 買い手や流通を欧米企業に頼るしかなく、生産物を安い価格に決められてしまうなど、立場が独立前と変わらないこと。
- オ 自分たちだけで流通のシステムを作り上げようとしたが上手くいかず欧米企業に頼り、流通の費用を減らせずにいること。

問七 — 線④「もう少し複雑な事情」とありますが、コーヒー豆の「複雑な事情」には何があるでしょうか。あてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大量生産による品質の低下
- イ 需要と生産量のバランスの崩れ
- ウ 不作による価格の急な値上がり
- エ 気候条件による生産量の不安定化

問八 — 線⑤「ここに『フェア』なトレードの本当の意味があるのです」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「ここ」とはどのような状態をさしていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 生産国が農業投資をしやすくするために、消費者側が経済的・社会的に支援^{えん}をして労働者の働く環境もとのえようとする状態。
- イ 労働者の生活の安定のため、NGOが先進国の輸入業者との間で最低価格を取り決め、支払いできる業者との貿易をすすめる状態。
- ウ 天候不順による生産量の変動から価格の変化が起こらないようにするため、消費国側が奨励金などで環境破壊^{かい}から守ろうとする状態。
- エ 生産者側に社会的・環境的基準を満たすことを求め、消費者側にその労働や生産のための努力に見合った価格の支払いを求める状態。

(2) 「『フェア』なトレードの本当の意味」とは、どのようなことですか。説明として最も適当な意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 生産国と消費国がそれぞれの守るべき基準を満たすことで、貿易を行う上で対等の関係を築くこと。
- イ 消費国が今まで不当に得てきた利益を生産国に返し、今後はきちんと対価を支払っていくということ。
- ウ 消費国が生産国に、自分たちが栽培できない農作物を代わりに作ってもらっているという意識を持つこと。
- エ 消費国は生産国の農業労働者の生産意欲を高めるといふ目的をもって、持続可能な開発を行っていくこと。

問九

ア

に入る最も適当な漢字一字を自分で考えて答えなさい。